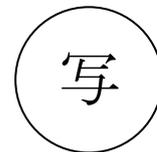


令和5年（2023年）8月7日開会

令和5年（2023年）第10回

茨木市教育委員会臨時会

会 議 録



茨木市教育委員会

◆ 令和5年8月7日(月)第10回教育委員会臨時会を南館10階大会議室で開催した。

◆ 出席委員

教 育 長	岡 田 祐 一
教育長職務代理者	前 川 佳 之
委 員	堀 村 佳奈子
委 員	堀 井 孝 容
委 員	水 上 明 美

◆ 本委員会に出席した者

教 育 総 務 部 長	小 田 佐衣子
教 育 政 策 課 長	辻 田 新 一
学 校 教 育 部 長	青 木 次 郎
学校教育推進課長	梶 西 学
学校教育推進課指導主事	村 岡 倫 子

◆ 署名委員

委 員	堀 井 孝 容
-----	---------

(令和5年8月7日(月)、午後2時00分)

議事日程 (令和5年第10回茨木市教育委員会臨時会)

(於：南館10階大会議室)

日程	議案番号	件名	摘要
1		会議時間の決定について	
2		会議録署名委員指名について	
3	34	令和6年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択について	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

(14時00分 開会)

岡田教育長

ただいまから、令和5年第10回茨木市教育委員会臨時会を開会いたします。
本日は傍聴をしたいとの申し出がありますので、ここで入室をしていただきます。
それでは、入室させてください。途中で随時入室してもらいます。

(傍聴者入室)

岡田教育長

本日の出席者は5名でありまして、会議は成立いたしております。

それでは、これより本日の会議を開きます。

日程第1 「会議時間の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本日の会議時間は、午後5時までといたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めまして、本委員会の会議時間は午後5時までと決定いたします。

日程第2 「会議録署名委員指名について」、本件は茨木市教育委員会会議規則第17条の規定により、堀井委員をご指名申し上げますので、よろしく願いいたします。

日程第3 議案第34号「令和6年度使用茨木市立義務教育諸学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

青木学校教育部長

議案第34号につきまして、ご説明いたします。

本件は、令和6年度に本市立小・中学校において使用する教科用図書の採択についてでございます。

教科用図書を採択する期間については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条において、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとされております。

また、同施行令第15条において、その期間は4年と定められています。

中学校教科用図書につきましては、使用開始から4年目となる令和6年度についても、別表1の項番1、「令和6年度使用中学校教科用図書採択一覧表」のとおり、本年度と同一の教科用図書を採択いただくこと、また別表1の項番2のとおり、「令和6年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書について」は、必要に応じて採択することの決定をお願いするものでございます。

次に、小学校教科用図書についてでございます。

現在使用している教科用図書が今年度4年目であることから、令和6年度使用教科用図書につきましては、全ての種目について新たに採択を行うこととなります。

本市教育委員会では、茨木市立義務教育諸学校教科用図書採択規則及び茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則にのっとり、まず、令和5年4月21日に茨木市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会選定委員及び諮問事項を決定し、4月26日に選定委員の任命及び委嘱と諮問を行いました。

次に、選定委員会での決定を受け、5月17日に調査員を決定し、5月29日に任命いたしました。

選定委員会では、調査員会からの報告等を含めて慎重に審議をいただき、7月18日に教育委員会が選定委員会委員長より答申を受け取りました。

答申のもとに、選定教科用図書とその他の教科用図書について、別表2の項番1のとおりまとめております。

小学校につきましては、種目ごとに1者の教科用図書の採択をお願いいたします。また、中学校と同様に別表2の項番2のとおり、令和6年度使用学校教育法附則第9条関係教科用図書については、「必要に応じて採択する」ことの決定をお願いするものでございます。

以上、よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

岡田教育長

事務局の説明は終わりました。これより質疑を行います。

まず初めに、中学校教科用図書についてであります。

中学校教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条及び同法律施行令第15条1項に基づき、本年度と同じ教科用図書を採択することとされておりますので、別表1「令和6年度中学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第9条関係教科用図書について」は、このとおり採択することといたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。よろしいですか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認め、中学校教科用図書につきましては、別表1「令和6年度使用中学校教科用図書採択一覧表及び学校教育法附則第9条関係教科用図書について」のとおり採択することといたします。

次に、小学校教科用図書について協議をしていきたいと思っております。

公正かつ適正な採択に当たり、教員や保護者等から構成された選定委員会に諮問を行い、答申を受けております。

種目ごとの協議に入る前に、各種目の共通事項でございます「ユニバーサルデザインに関すること」「学習者用デジタル教科書に関すること」「二次元コードに関すること」について、全体としてどのように考えるのか、選定委員会の答申を踏まえまして、確認しておきたいというふうに思います。

まず最初に、ユニバーサルデザインについてでございますが、障害、その他の特性の有無にかかわらず児童にとって読みやすいものとなるよう、各社ユニバーサルフォントやカラーユニバーサルデザインについて配慮しているようでございます。実際に色覚体験レンズで見え方を確認しましたが、レイアウト等を工夫して境目を分かりやすくするなどの配慮も感じております。

学習用デジタル教科書についてでございます。学習用デジタル教科書に関しましては、各教科、おおむね策定が予定されております。特に英語に関しましては、令和6年度から紙の教科書と併用して提供される予定になっておりますので、音声や動画を再

生できるメリットを生かして、英語の正しい発音を繰り返し聞いたり、動画を通じて理解を深めたりすることに有効に活用していくことが大切だというふうに思っております。

二次元コードに関しましては、今回、教科書ではURLやQRコードなどの二次元コードが増えております。掲載されている場所や、読み取ることで閲覧できる内容が各業者や教科によって様々でしたが、実際の児童の学習とリンクさせてデジタルのよさを生かしていく工夫が必要だというふうに感じております。

これらのことを踏まえまして、各種目の採択を行うということによろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、これから種目ごとに協議をしていきたいと思っております。

選定委員会の答申により、種目ごとに選定された3者もしくは2者について協議をし、1者の教科用図書を決定していきます。また、選定外がある場合は、採択の対象としないことが妥当であるか、初めに協議を行うということによろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、1者の教科用図書を決定してまいりたいというふうに思います。

まず国語についてですが、選定委員会では、「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」の3者が選定されております。

国語の発行者は3者だけありますので、3者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いしたいというふうに思います。

前川委員

教育長職務代理者の前川でございます。教科書選定に関わるのは初めてであり、責任の重さをひしひしと感じております。

個別科目の選定理由を説明する前に、教科書選定に当たっての私の基本的な考え方をご説明します。

私は、教科書は児童が学びやすく、指導者が教えやすいものがベストであると考えています。このため、教員や保護者等で構成された選定委員会から7月18日にいただいた答申をなるべく尊重しながら、私自身も可能な限り教科書を読み込んで選定作業を行ってきました。本当に長い時間をかけて検討いただいた選定委員の皆さんに感謝します。

特に重視したのは、勉強嫌いの児童をつくらないように、また学力低位の児童でも学習に取り組みやすいように、分かりやすく、学ぶことが楽しくなるような教科書を選定するようにしました。どの教科書も創意工夫がされており、選定には苦劳しましたが、何とぞご理解いただきますようお願いいたします。

そして、国語の教科書の選定についてですが、3者ともそれぞれ工夫をされていると感じました。比較考量の結果なんですけど、私としては、東京書籍が一つ一つの教材の長さが学年相応であり、教材に親しみやすく、また挿絵も活用して内容も捉えやすいので、東京書籍を選定すべきというふうに考えました。

以上です。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに何かご意見、いかがでしょうか。

堀村委員

教育委員の堀村です。よろしくお願いたします。

私も国語の教科書3者を見せていただきまして、どれもいいところと悪いところ、それぞれあるなと思って見ておりました。私も前川委員と同じく東京書籍が一番分かりやすいのかなというふうに思いました。

例えば、1年生の特殊音節の指導において、「ねこ」と「ねっこ」というような促音について習うところがあるんですけども、動作と連動させて理解していく流れとなっておりました。また、同じように拗音、長音についても同様に、動作化と視覚化を行っており、このところ、非常に分かりやすいなと感じました。

デジタルの捉え方ですけども、6年生の教材の中でデジタルノートというのがあ

りまして、それを活用して実践的な力を養っていくことができるものがありまして、QRコードからデジタルノートにつなげられるのはよいなと感じました。

光村図書もいいかなと思いましたがけれども、読み応えがある分、少し難しく感じました。ただ、QRコードのほうから、作者自身が作品に当たっての思いを話すインタビューの動画があるのはすごくいいなと感じました。

3者を比べまして、先ほども申し上げましたように、東京書籍がふさわしいのではないかなと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうですか。

堀井委員

3者ともお話も大変よく作り込まれている感じがするんです。ただ、デジタルコンテンツの扱いに関してなんですけれども、確かにデジタルコンテンツというのは非常に便利で、子どもに効率よく発音とか言語力を養う面で非常にいいんですけども、問題は方言の伝承というのがそこで途絶えるおそれがあるということなんです。例えば、英語で言うモンキー、関東では猿って言いますが、関西のほうでは猿って言いますよね。そのイントネーションの違いというのがデジタルコンテンツによって均一化されることによって、方言が途絶することを危惧しております。

この3者のうちで、デジタルコンテンツの充実度合いというのはどれもいいんですけども、光村図書さんのほうはあえてデジタルコンテンツを少なくしてあるところから、そこは教師の発音とか、そういった伝承に関わる重要なところではないかなと思いますので、僕はデジタルコンテンツが少なめの光村図書をあえて推薦したいなと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに。

水上委員

教育委員の水上です。よろしくお願いします。

私は今回の教科書の選定に当たっては、接続期、就学前と、それから1年生の就学期について、各教科書会社がどんなふうに分かりやすく接続期に記載されているのかなというところにも注目しながら選定をさせていただきました。

特に国語は、東京書籍、教育出版、光村図書があったんですけども、どの教科書会社も丁寧に接続期をつくり上げられておられました。その中でも東京書籍については、声のものさしというのは幼稚園でもやっているんですけども、動物で表示されていて、動物の大きさの違いで表現されていて、これは教育出版も同じように取扱いはあったんですけども、それ以上に東京書籍のほうが大変分かりやすい記載がありました。

それから、鉛筆の持ち方も、これも就学前でもいろいろなところでやられておりますけれども、1年生の最初にしっかりと鉛筆の持ち方を指導するというあたりでは、東京書籍のほうが大変分かりやすく、それから写真も大きく、左利きの動画もあったということもありました。

それから、文字をいよいよ書く段階になりまして、あいうえおからではなくて、どの教科書会社からも一筆で、1回で書けるような表記でされているんですけども、「くつ」であるとか「くり」であるとか、「とり」であるとか、児童が書きやすいように書かれているんですけども、特に東京書籍は一文字ずつしっかりと丁寧に指導できるような順に、それから画数の少ない書きやすい字から順に取り扱われているので、私は東京書籍がふさわしいのではないかなというふうに推薦をさせていただきます。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうから、国語というか、全体的なものとして、今本市が取り組んでいるいばらきっ子という施策があるんですけども、それに合致しているかどうかも含めて見させていただきました。教育出版については、広がる言葉ということで、学習の全体像が本当に分かりやすくまとめられていたかなというふうに思います。東京書籍のほうは、らせん状に言葉の力を育てていくために、この巻末の言葉の力というところがすぐくつながりがよいかなというふうに思っています。もう一つ、本市として今取り組んでいる確かな言語力の育成という観点で見ますと、東京書籍が一番今のところ

合致しているのかなというふうに思っております。

ほか特にご意見ございませんか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、国語につきましては、各委員の御意見を伺うと「東京書籍」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「東京書籍」に決めたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、国語につきましては「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、次は書写についてでございます。

書写につきましては、選定委員会では、「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」の3者が選定されております。

書写の発行者は3者だけでございますので、3者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。どうでしょうか。

堀村委員

見せていただいて、私がいいなと思ったのは光村図書でした。6年生のところに書写ブックというのがついていまして、1年生から6年生までの6年間で学んだものをまとめてあるページがあるんですけども、学んだ内容を具体例とともにまとめてあって、大変分かりやすい。それを日常生活に広げやすいということで、力をつけることができるのではないかなと思いました。

また、どの3者とも日本文学の歴史において漢字の誕生というところが扱われているんですけども、甲骨文のほうから扱われているというのは光村図書だけでした。

あと、光村図書の6年生の最後のところのメッセージで「私の文字」というコーナ

一がありまして、それぞれの著名人の文字のよさや、将来につながるメッセージが書かれていまして、6年生に対して今後のキャリアを考えたり、自分自身を見つめたりというところのエールになるのではないかなと思って、光村図書が一番ふさわしいと思いました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうですか。

前川委員

3者とも大変工夫されているというふうには思います。ただ、私としては1年の導入時というか、スタートが非常に大事だと思っております。そういう観点で、比較しますと光村図書が、猫のキャラクターがポーズをとることでとめ、はね、はらいを表現しておりまして、これが非常に分かりやすいなと思いました。

また、全体として紙面構成もすっきりしており、文字というものに興味を持てるという意味で光村図書を推薦したいと思えます。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかご意見どうですか。

水上委員

3年生から毛筆がスタートするんですけども、毛筆スタートブックというものがありまして、多くのページに毛筆についての準備段階である説明が丁寧に記載されておりまして、写真も大きく記載されていますので、子どもたちには大変理解しやすいのかなというふうに感じました。光村図書です。

1年生のスタートの部分も、どの教科書会社も「くつ」という文字からスタートしているんですけども、光村図書は一文字ずつ、「く」「つ」と1つずつ分けてとめ、はらい、先ほど前川委員のほうからもお話があったんですけども、とめ、はね、はらいのところも丁寧に指導をされている箇所がありましたので、私も光村図書でお願いしたいなと思っています。

堀井委員

3者とも非常によく作り込まれていて、どういうふうに日本語を書けばいいかというのがいろいろ書いていて、非常にすばらしい出来だと思います。

僕は、光村図書さんだけが外国語に関してはあまり表記をされてなかったという点で、混乱を招かないという点で評価をさせていただきました。というのは、東京書籍、教育出版さんで、5年生、6年生の巻末に各言語の書き方というのがありまして、世界ではいろいろな文字があるよということだったんですけども、一応それは中学ぐらいで勉強すればいいかなという話だと思うんです。やっぱり日本語をしっかりと学ぶという面で、日本語の書き方に集中しているのは光村図書さんかなということで、僕も光村図書さんを推薦させていただきたいなと思います。

以上です。

岡田教育長

私も、書写の系統性がどの学年でも、裏表紙のところに最後にございまして、6年生までのつながりが分かりやすいかなと、保護者の理解を得ようとする配慮があるというふうに思っておりますので、光村図書がいいかなというふうに思います。

ほかにはご意見ございますか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

書写につきましては、各委員のご意見を伺うと「光村図書出版」を評価するご意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「光村図書出版」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、書写につきましては「光村図書出版」を採択することといたします。

続きまして、次は社会科でございます。

社会科については、選定委員会では、「東京書籍」「教育出版」「日本文教出版」の3者が選定されております。

社会科の発行者は3者だけありますので、3者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。

前川委員

日本文教出版について、選定委員会の答申の中でも指摘されているんですが、「内閣の学習でこども家庭庁が記載されているなど、資料が詳しく全体的に見やすいものとなっており、調べ・まとめる意欲が高まりやすい内容」という答申をいただいているんですが、実際に私も読んでみて、そのように感じました。

社会科の学習の進め方ということで、児童が学ぶ目的を明確にして、自ら疑問を持つことができるという点もいいと思います。

また、巻末にはSDGsの目標シリーズというのがあるんですが、これも学習に有効活用できるのではないかとということで、東京書籍、教育出版ともに工夫はされているんですが、比較考量の上、日本文教出版が私としてはよいのではないかなと思いました。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

水上委員

日本文教出版なんですけれども、扉のところに何年生の社会科が始まりますということで、この1年間、社会科でどんなことを学ぶのかというのが分かりやすく記載をされているということが、最初のページを開いたときに子どもたちには分かりやすいかなというのを1つ感じさせていただきました。

それから、4年生の単元のところで、電気、水の単元のところで、大阪府内の身近な題材が使われているということで、自分たちが住んでいる大阪について知れるというところ辺り大変身近な題材が取り扱われておりました。このあたりで日本文教出版、私のほうは推薦させていただきたいなと思っております。

岡田教育長

ほかにご意見ございますか。

堀村委員

3者とも自らが考えるような教科書にはなっていると思うんですけども、最も子ども同士、生徒同士で話し合っ、なるほどと納得して考えられるようになっている教科書が日本文教出版ではないかなと私も感じました。

また、先ほどもお話がありましたけれども、社会科の学習の進め方がすごく分かりやすく、どういうふうに目的を、意識を持ってやっていくのかとか、また具体的に社会が自分の生活にどう関わるのかというところが分かりやすくなっているかなと思いました。

また、タブレットを使う学習だけではなくて、自らインタビューしたり、足を運んだりして学んでいくという学び方になっていて、実践的で分かりやすいかなと思いましたので、日本文教出版を推薦させていただきます。

堀井委員

3者ともいろいろ工夫されてまして、歴史を子どもに教えるというのは本当に難しい話だと思うんです。取舍選択というのは必要だと思うんです。まず、東京書籍さんのほうは、大分簡略化し過ぎているのかなというのがあって、少し内容が薄いんじゃないかなと思うんです。

残り、教育出版さんと日本文教出版さん、例えば江戸時代のことについて見せていただいたんです。日本のお札って見たら分かるように、明治維新以降に活躍された方の肖像ばかりで、江戸時代ってあまり重視されていないんですね。日本の基礎というのは、近世、江戸幕府で260年の鎖国の間にできたわけですし、そこをどうして日本だけでやっていたのか、どうしてこれだけの素養というのが近世日本に培われたのかということを知ることは非常に大切だと思うんです。教育出版さんと日本文教出版さんを比べまして、日本だけでやりくりしていた、これはSDGsにつながりますよね。それと学問、今まで日本でいろいろな学問があったと、それがずっと延々と続いて日本の学問の基礎を出していたと。そういったことがいろいろ書いていて、非常

にどちらを選ぶのか迷うところなんですけども、僕としては、より詳しく書いている教育出版さんのほうを推したいなと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。

私も教育出版のほうで、6年生で川崎の多文化共生という、現代の問題というか、課題を扱っておられるところが、ここは子どもたちにも分かってほしいなという部分もありますし、それからもう一つ、憲法について、平和主義のところもありますけれども、ここが両方の意見を戦わせるというか、そういう形で書かれているので、これからの日本の部分で言えば、子どもたちにどういう考えを持っていただくかという部分で、違った意見をすり合わせして、どういうふうにつないでいくのかというのが大切かなというふうに思います。

それと、戦争のところですね。特に日韓の併合のところとかも含めて、どういう形で実際事実がどうであったかというのを一番詳しく書いてあるのは教育出版だというふうに思いますので、私は教育出版がいいかなというふうに思っています。

ほか何かご意見ございませんか。よろしいですか。

各委員のご意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

社会科につきまして各委員のご意見を伺うと、一応3人の方が「日本文教出版」、2人の方が「教育出版」ということですが、評価する意見が多かったほうということで、「日本文教出版」を採択する発行者と決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、社会科につきましては「日本文教出版」を採択することといたします。

続きまして、地図でございます。

地図については、選定委員会では「東京書籍」「帝国書院」の2者が選定されております。

地図の発行者は2者だけありますので、2者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

前川委員

選定委員会の答申においては、帝国書院については「地図帳の使い方が分かりやすく説明されており、索引の使い方なども視覚的に分かりやすく学習することができる内容になっている」とされております。東京書籍と帝国書院の2者しかありませんので、どちらのほうが良いかというのは、ここも比較考量でしかないと思うんですが、私自身が実際に読んだ上で、帝国書院のほうの方が東京書籍に比べて見やすいつくりになっているというふうには思いましたので、帝国書院のほうを推したいと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

2者を比べまして、それぞれいいところがあったと思います。東京書籍のほうは情報が豊富で、世界地図や日本地図、防災地図などが見やすいなと思って見ておりました。

帝国書院のほうは地図の色が見やすいと思いました。ただ、茨木の小学生が使うという観点から見まして、帝国書院のほうで近畿地方の地図で茨木が3回出てきて、記載されているんですけども、東京書籍のほうは1回しか出てきていないということで、やっぱり一番関心がある、小学生が茨木どこかなと見たときにたくさん出ている帝国書院のほうの方がふさわしいのではないかなと感じました。

岡田教育長

ありがとうございます。

堀井委員

2 つとも本当にいい出来栄えなんです。児童にメルカトル図法というのを説明するのに、どうしてグリーンランドがオーストラリアより大きいんだろうという、それを説明するのって難しいんですよ。地球儀を用いればそれが一番いいんですけども、そうはいかないから地図帳でどっちがいいかと言われると、東京書籍さんの地図帳で北極圏を北から見下ろすような地図がありまして、それだと非常にグリーンランドとか極北の位置関係というのが明確に描かれているので、全体的に地球を見渡すのであれば東京書籍さんのほうがちょっと上かなと思いますので、僕は東京書籍さんを推させていただきますかなと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

水上委員

東京書籍のほうは世界の地図記号と比較できるという、少し興味のあるような、関心を高めるような記述もありました。ただ、帝国書院のほうが東京書籍に比べると全体的に大きな字で、カラーの色刷りも書かれていて、色刷りについても大きな字で書いてありますし、大変見やすいなという印象を受けました。

それから、子どもたちって方位っていうのはなかなか難しいんですけども、1 ページに児童が立った様子で、北を向いたら右手が東というような、イラストを見れば大変分かりやすいし、子どもたちも覚えやすいというような、大きく表示をされているというのが大変印象に残りました。先ほども堀村委員からありましたけれども、茨木が何箇所かきちっと記載されているという点では、大変優れているかなと思います。帝国書院のほうを推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも、先ほど堀村委員が言われたように、自分が住む茨木市を複数回見れるというか、ある意味、茨木が載ってなくて高槻が載ってて、茨木がどこか探さない

いけないというところもあるので、やっぱり興味関心を高めるためにも複数回探せる場所が出てくるので、帝国書院がいいかなというふうに思います。

ほか何かご意見ございますか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

地図については、各委員のご意見を伺うと「帝国書院」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「帝国書院」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、地図につきましては「帝国書院」を採択することといたします。

続きまして、算数についてでございます。

算数については、選定委員会では「東京書籍」「新興出版社啓林館」「日本文教出版」の3者が選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった「大日本図書」「学校図書」「教育出版」の3者について協議をいたします。

まず、選定外の理由として、「大日本図書」のところですが、学年ごとに1冊となっており扱いづらいというのが答申の中でございました。それから「学校図書」につきましては、1年生のスタートカリキュラムが別冊になっておらず、内容も十分ではないと。他者は別冊になっているところがたくさんあります。それから「教育出版」につきましては、字がちょっと小さくて、情報量が多いため見づらいと。それから、キャラクターのせりふに考えさせたい内容の答えが載ってしまっているということで、答申のほうで選定外の教科書となったというふうなことでございます。

そういう報告を受けまして、これらの意見から選定外の「大日本図書」「学校図書」「教育出版」の3者について、採択の対象としないことが適切であると考えます

が、ご異議ございませんか。よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定されました「東京書籍」「新興出版社啓林館」「日本文教出版」の3者について協議をいたします。

3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

水上委員

算数科においては、問題解決学習というのを茨木市のほうもしっかりと取り組んでおられるというあたりで、日本文教出版のほうでは学び方の4ステップということで、まずどんな問題かなと問題を確認めて、そして自分でまず考える。そして、子どもたち同士が自分の考えを交流してお互いで学び合う。そして、最後に振り返って答えを確認めていくというような、問題解決学習のこの4段階については、茨木市が取り組んでいる部分では大変分かりやすく、大変マッチしているのかなということで、日本文教出版のほうを私は推薦したいなと思っています。

また、就学前、スタートブック、1年生のところなんですけれども、スタートのところが大変丁寧に、就学前ではこんなふうにして算数に関わるようなことをやっていたんだよということを振り返られるようなページが大変多く取り入れられておりますので、子どもたちも算数に対して嫌いにはならない、自然な形で算数の学習に入っていけるのかなということで、大変丁寧につくられていますので、私は日本文教出版のほうを推薦したいなと思っています。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

3者を比べまして、東京書籍のほうは少し難しいかなというふうに感じました。

啓林館と日本文教出版を比べまして、やはり先ほどもお話ありましたように、日本文教出版のほうが茨木市の問題解決型学習とマッチしているのではないかなと思います。

また、1年生の「かずや かたちで たのしく」っていうところでは、幼児期の活動と算数のつながりが絵本仕立てで書かれていて、児童に苦手意識が生まれないように工夫されていたり、また6年生の「マテマランド」という学習では、中学校の学習につながる探求的な学習で、算数の本質に迫る内容となっています。また、数学的な見方とか考え方を繰り返し学べるようになっています。

啓林館の6年生、未来の扉というところも、算数を生かして働く方へのインタビューが掲載されていて、学習がどのように将来に結びつくか、キャリア教育につながるものがあって、その点はいいかないかと思いましたが、先ほど述べましたように、茨木市の学習とマッチしているということで日本文教出版を推薦させていただきます。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀井委員

算数も非常に苦手意識が生まれやすい科目ですので、慎重にやらないといけないと思うんですが、まず3者を比べて、答え合わせが自動でできるという、タブレットの正誤判定というのが物すごい画期的な機能だと思うんです。これがついていたのは大日本図書さんと教育出版さんということで、これだけで学校の先生の負担が相当減るということだと思うんですね。

そういう面でこの2つを選んで、どちらが果たして苦手意識の克服に役立つかわねると、日本文教出版さんのほうが割と輕易に説明して、算数が嫌いにならないような、そういう工夫をされているんじゃないかなと思いますので、僕は今回は教育出版さんを推したいと思います。

岡田教育長

日本文教出版でよろしいですか。

堀井委員

ごめんなさい、日本文教出版さんです。東京書籍さんと日本文教出版さんですね、2つを比較して、日本文教出版さんでした。すみません、失礼しました。

前川委員

先ほども指摘があったと思うんですが、東京書籍については情報量が多くて、児童が見ただけで難しい、算数って難しいなと感じてしまうような可能性があるのではないかなと思いました。

その上で、啓林館と日本文教出版を比較しましたら、日本文教出版については、全体的に情報量が精選されておりまして、目次についても領域ごとに色分けされており、他の学年との系統性が詳しく書かれていることで、児童自身が学習の段階を捉えやすいような工夫がされています。

また、情報量が精選されているということで、特に学力低層の児童でもついていくことができるのではないかなというふうに思いましたので、私としては日本文教出版を推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも、問題解決学習を今ベースに置いて、算数ですけど、理由を書かせるとか、そのように考えさせた中で、文章化で自分の考えをまとめていくというか、そういう部分もありますので、日本文教出版がいいかなというふうに思っております。

各委員の意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

算数については、各委員のご意見を伺うと「日本文教出版」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「日本文教出版」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、算数につきましては「日本文教出版」を採択することといたします。

続きまして、理科でございます。

理科につきましては、選定委員会では「東京書籍」「大日本図書」「新興出版社啓林館」の3者を選定されております。

まず、選定外となった「学校図書」「教育出版」について協議をいたします。

答申のほうから、「学校図書」につきましては、5年生のふりこの学習で平均を活用するが、算数の時期と合わない。一応、中には平均を活用するところが5年生に載っていますけれども、実際に算数で学ぶところは少し後になりますので、先に理科のほうになってしまうというところがございます。それから「教育出版」は、デジタルコンテンツが少なく、児童にとってイメージがしづらいというところが選定委員会のほうから報告を受けております。

これらの意見から、選定外の「学校図書」「教育出版」の2者について採択の対象としないことが適切であると考えますが、ご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定された「東京書籍」「大日本図書」「新興出版社啓林館」の3者について協議をいたします。3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

堀井委員

理科も非常にどれも作り込まれていて、いい感じでできているんですけども、問題は今コロナの後で、コロナ中もそうだったんですけども、実験器具を実際に手に触れる機会がかなり少なくなってしまったということなんです。理科って実験してイメージをつけるということが非常に大切なんですけども、その機会を失ってしまうと、

教科書の絵だけを見て理科の原理というのを理解するのは、非常に子どもにとっては難しいんですね。今後もコロナとかほかの新興感染症が起こった場合、教科書だけじゃなくて、デジタルコンテンツを使ってイメージを作成するというのは非常に大切なことだと思うんです。

3者を見させていただいて、いろいろ実験動画を見させていただいたんですけども、東京書籍さんの動画というのが最初から最後まで手順を踏んで、どういうふうにその理科の実験が行えるかということを説明していきまして、そうしたのほかには見られないかなと思いましたので、今回は東京書籍さんを推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにご意見。

堀村委員

3者を比べまして、大日本図書さんは、子どもが問題を見つけるところから始める問いかけとなっていて、ちょっと漠然としていて、理科を難しく感じる児童がいるのかもしれないなと懸念しました。

啓林館のほうは、5年生の生命の誕生の学習において、生まれる頃の赤ちゃんと等身大の絵が載っていて、子どもたちのイメージが湧きやすくてとてもいいなと思いました。

ただ、全体を見まして、東京書籍のほうが大判で、写真も鮮やかで美しくて、また表紙、巻頭の言葉、問いかけが理科への興味関心を引くつくりとなっているなと思いました。さらに、観察から疑問を引き出したり問いかけが分かりやすいなど、導入で子どもたちにされる工夫が随所にされていました。あと、「理科の世界たんけん部」というコーナーは、とてもおもしろくて、児童の関心を高める内容となっているなと思いましたので、東京書籍を推薦させていただきます。

岡田教育長

ありがとうございます。

前川委員

まず初めに、大日本図書については情報量が非常に多いなと思いました。同様に啓林館についても、教科書のサイズがどうしても小さいために、情報がたくさん詰まっております。児童にとって見づらく、難しく感じてしまうのではないかなというふうに思いました。

東京書籍については、巻頭の理科の学び方が詳しく示されており、全体的に内容がまとまっていて見やすく、理解しやすい内容となっています。また、導入に当たるレッツトライが物語の形式で進められており、工夫されていることで、問題解決しようとする態度を育むことができるよう配慮されているとも感じました。また、全体的に写真が大きく、図や表が多くて見やすいということもよいと感じましたので、私としては東京書籍を推薦したいと思います。

水上委員

私も東京書籍を推薦させていただきます。表紙が大変きれいで、子どもたちの興味を引くようなインパクトのある表紙で、学習を魅力的に見せる、理科も得意不得意のある教科ですので、どんな学習するのかなみたいなのが、表紙の部分で大変インパクトがあるかなというふうに思いました。やはり丁寧に、何年の理科で学ぶことというのも表紙のところ、見開きのところで分かりやすくなっていますし、目次は裏表紙のところにはついているんですけども、ここの表記も分かりやすいかなと思いました。

3者とも理科室の使い方ということで、名前はちょっと違うんですけども、それぞれ巻末等にやけどのことであるとか、それから危険マークがあって、それから保護の眼鏡マークであったりとか、安全に理科室を使う、それから道具のこととか、全て説明はしてあるんですけども、やっぱり東京書籍のほうがイラスト等も大変見やすいです。ノートのまとめ方であったり記録カードの書き方であったり、それから、理科もそれぞれが1人で考えるんですけども、先ほどの算数ではないんですけども、みんなで考えを交流しあうというところもありますので、発表の仕方であったりとか、そういった授業の取り組み方のヒントも丁寧に記載をされていたので、私は東京書籍のほうを推薦させていただきたいなと思っています。

岡田教育長

私のほうも東京書籍がいいかなと。理科の学び方が詳しく示されていて、全体

的に内容がまとまっていて見やすい。理科離れもありますので、本当に見やすく、興味関心がいくような書き方というか、掲載がいいかなというふうに思っています。

それでは、各委員のご意見が出尽くしたように思いますので、質疑を打ち切りましてもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

理科につきましては、各委員のご意見を伺うと「東京書籍」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「東京書籍」に決めたいと思いますが、よろしいですか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、理科につきましては「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、生活についてです。

生活につきましては、選定委員会では「東京書籍」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」の3者が選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった「大日本図書」「学校図書」「教育出版」について協議をいたします。

選定委員会からの選定外の理由として、「大日本図書」につきましては、土のリサイクルの仕方の紹介など、内容が低学年には難しい。「学校図書」につきましては、スタートカリキュラムのページにおける写真が少なく、ランドセルの色合いに多様性の配慮が足りない。「教育出版」につきましては、振り返りの量が多く低学年には負担が大きい、そういうふうな答申が出ております。

これらの意見から、選定外の「大日本図書」「学校図書」「教育出版」の3者について、採択の対象としないことが適切であると考えますが、ご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定されました「東京書籍」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」の3者について協議をいたします。3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

堀井委員

3者ともいい感じですがけれども、ぱっと見、ヨシタケシンスケさんの写真のあるイラストが随所に置かれている光村図書さん、この教科書いいなと思うんです。あともう一ついいのは、絵本から取っつくという、そういう親しみやすさに加えて、図鑑のようなシートが下敷きになっているところなんです。これが非常に見やすくいいなと思うんです。ただ問題は、切り離した後、なくしてしまわないかというのが心配だなというのはあるんですけれども、この3者のうちでは光村図書さんを僕はいいなと思いますので、こちらを推薦させていただきたいと思います。

岡田教育長

ほかに。

前川委員

生活という科目についてなんですが、私としては、1年生の最初のスタートの時にいかにスムーズに学校生活になじんで学習に入れるかというところを重視しました。児童は、幼稚園とか保育所とか様々な形で就学前教育を受けてきているので、もちろん環境が全然違う状況から来るんですが、そういう意味で比較考量をしますと、啓林館についてはまず最初に学校を知ること、健康面とか安全面なども含めて、そういうところからスタートをして丁寧に書かれているので、私としては啓林館を推薦したいと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

水上委員

私は3者を見させていただいて、東京書籍を推薦したいなと思ったんですが、生き物図鑑というものがありまして、実物大の草花があって、イメージが湧きやすいかなというふうには見させていただいて、そしてワークシートやカードが他者より多く掲載されていまして、子どもたちが作成するときにイメージが湧きやすいですし、書きやすいのかなという印象を受けました。

ただ、二次元コードの掲載が他者より多いので、この辺の取扱いが難しいのかなというふうには感じたのですが、先ほど申し上げた2点で、写真等のきれいさからも東京書籍を推薦したいなというふうに感じました。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

堀村委員

私も3者を比べさせていただいて、丁寧な配慮のある記述があるのが啓林館かなと私のほうは思いました。上巻のほうで水遊びの学習というのがそれぞれあるんですけども、食べ物とかマヨネーズとか、飲み物とかが入っていた空の容器を使って水鉄砲のようにして使うという学習なんですけれども、啓林館だけはアレルギーへの配慮がありましたので、こういうところの細やかな配慮がいいなと感じました。

また、「びっくりずかんL I V E」というのがあるんですけども、迫力がある写真が載ってまして、理解のつながりになっているのではないかなと感じましたので、啓林館を推薦させていただきます。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうは、家族というところで見させてもらいました。東京書籍と啓林館のほうは、家族のために仕事を頑張るという観点ではなくて、自分の成長に焦点を当てた構成になっていますので、多様な家族背景に配慮されているかなというふうには思いません。光村図書のほうは、家庭の仕事の単元で目的対象が家族にフォーカスをされてしまっているというふうに思っています。

あと、啓林館のほうは一回り小さいんですけど、詰まった形ではなくて、持ち運びしやすいのかなと、その差だけなんですけど、私も啓林館のほうがいいかなというふうに思っています。

ほかどうでしょうか。ないですかね。よろしいですか。

それでは、生活につきましては、各委員のご意見を伺うと「新興出版社啓林館」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「新興出版社啓林館」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、生活につきましては「新興出版社啓林館」を採択することといたします。続きまして、音楽についてです。

音楽につきましては、選定委員会では「教育出版」「教育芸術社」の2者が選定されております。

音楽の発行者は2者だけありますので、2者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

堀井委員

教育出版社さんの教科書の1年の楽器をつくってみようというところで、ペットボトルに小豆を入れるというところがあって、小豆を入れた後に水を入れて吹いてみようと、ペットボトルをマラカスとか笛に見立てて楽器を自分でつくってみようという、そういうコーナーがあります。しかし、これ気をつけていただきたいのは、小豆というのは小児の誤飲ですね、これの事故の原因となることなんです。小豆を吸い込んでしまって気管に菅入してしまうと、気管支鏡で全身麻酔で取らなきゃいけないという、そういう処置が必要になりますので、非常に危険だなというところで、これは消去法で今回は教育芸術社さんのほうを推薦したいなと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

私も2者を比べさせていただいて、それぞれいいところがあったかなと思います。教育出版のほうは、掲載されている写真がとてもきれいで曲とマッチしていますし、紙面の内容がシンプルで見やすいというところはすごくいいかと思いました。

教育芸術社のほうは、それに対して字が細かくて、少し見にくいところがあるんですけども、紙面の内容が詳しい分、何のための学習かが分かりやすく、振り返りのページも必ずあり、充実した構成になっています。教えるほうも教えやすいということもありますし、学ぶほうも学びやすく、音楽の力をしっかりつけていけるかと思っています。音楽の力をしっかりつけるという意味で、教育芸術社のほうを私は推薦したいと思います。

前川委員

私も教育出版、教育芸術社ともそれぞれ工夫してつくられていると思いましたが、比較検討をする上において、教育芸術社のほうは、QRコードを通して全ての教材の音楽を聞くことができる機能があります。これについては、実際に家庭においてもこの教材を使って学習の内容について保護者と話をしながら理解を深められるという形で、広がりということも期待できると感じました。また、吹き出しの中に児童に考えさせるようなことが多く記載されていることも、教育芸術社のほうが優れていると思いました。

先ほど堀井委員からペットボトルに小豆を入れることについての指摘がありましたが、恐らく教材として使う小豆というのは、教員か誰かが適正に指導されると思うんですが、やはり食べるものを材料として学習すること、特に廃棄されてしまうというようなおそれもあることから、ここの部分については私も疑問を感じました。そういう意味では、私としては教育芸術社のほうを推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかに。

水上委員

1年生の部分、ちょっと気にはなりながら見ていたんですけども、教育出版も教育芸術社も、一番最初の鍵盤ハーモニカの単元のところで言うと、鍵盤ハーモニカの実物大の写真が大きくあって、そして指の置き方等を確認できるようになって、分かりやすいのは教育出版かなというふうに思いました。ただ教育芸術社のほうは、その後の鍵盤ハーモニカの持ち方でいろいろな持ち方が、縦に裏のひもを持って演奏するという写真も細かく載っていましたし、それから洗いや、保存の仕方、始末の仕方写真がありましたので、児童にとっては、写真を見てぱっとこうすればいいんだという分かりやすい表記があったなというふうに思いました。

それから、リコーダーも教育芸術社のほうは、タンギングの仕方や指の置き方が絵や写真でとても分かりやすく、子どもにとってはイメージしやすい表記の仕方になっていました。それから、五線の太さについても見やすいということで、比較的大きく見やすいというのが両者比較で答申のほうを見させていただいて、そうだなというふうに実際に、五線の太さ、若干違うんですけども、やっぱりちょっと見やすいというふうには確認をさせていただきました。

全体的にすっきりした紙面は教育出版なんですけれども、教育芸術社のほうは大変見やすく分かりやすく、左側に楽譜があって、右側にこの時間に何を考えるのか、授業の目当ては何なのかというのが分かりやすく説明してありますので、教員にとっても指導はしやすいのかな、経験の少ない教員にとっても、これを見て言葉がけ等、分かりやすいのかなというふうには感じさせていただきましたので、教育芸術社のほうを推薦させていただきたいと思います。

岡田教育長

私のほうも、各単元の初めに何を目的にするかというのが書いてありますので、学習しやすいとか、児童が意識しやすいように配慮されているかなというふうに思います。教育芸術社のほうがいいかなとは思っています。

ほかにご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

音楽につきましては、各委員のご意見を伺うと「教育芸術社」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「教育芸術社」に決めたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、音楽につきましては「教育芸術社」を採択することといたします。

続きまして、図画工作について決定していきたいというふうに思います。

図画工作につきましては、選定委員会では「開隆堂出版社」「日本文教出版」の2者が選定されており、図画工作の発行者は2者だけありますので、2者について合わせて協議したいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

前川委員

2者ですので、それぞれを比較してみました。まず開隆堂については、巻頭の見開きのページに学習の目当てやタブレット端末のマークの説明など、大事なことが収まっており、児童が見通しを持って学習できるというところがいいと思いました。

一方、日本文教出版については情報量が多く、それぞれのページにたくさん、言葉は悪いですが詰め込まれている感じで、学習するに当たってはどうかと思いました。

また、開隆堂のほうは作品の写真が大きく、細部まで見やすく、迫力があるものが配置されていますが、一方で日本文教出版は、写真の数は多いんですが、大きさは小さく、子どもにとっては見にくいと感じました。以上のことにより、開隆堂を推薦したいと思います。

岡田教育長

ほかどうですか。

堀井委員

僕は日本文教出版さんがいいかなと思います。デジタルコンテンツが充実しているということと、やっぱり作品の数が非常に多いので、生徒さんはすごくいろいろなアイデアが浮かぶんじゃないかなという点で、コンテンツの数が多いう面では僕は日本文教出版さんを推薦します。

岡田教育長

ほかはどうですか。

堀村委員

私は開隆堂のほうがいいのではないかなと思いました。特にいいなと思ったところは、芸術家の作品と子どもたちの作品が同じページに掲載されていて、どれが芸術家、子どもたちかというのは、すごくなじんで見えるんですけども、自分たちの作品も芸術家の作品に近いんだということで、芸術が身近に感じられる、そういうようなページがありましたので、特にいいかなと思いました。

そのほか、單元ごとに学習で育つ力や目当てが3つのキャラクターで示されていて、授業によって目標が分かりやすいこととか、巻末のほうにショートチャレンジなどが載っているんですけども、それが子どもたちがやってみたいと思える内容になっているので、開隆堂のほうを推薦したいと思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

水上委員

私も開隆堂のほうを推薦したいと思っています。先ほど前川委員からもご意見があったように、巻頭の見開きのページにメッセージが入っていきまして、子どもたちに伝わりやすいということと、先生たちもイメージが湧くのかなと。それから、それぞれ単元で子どもたちが取り組んでいる大きな写真が、とても大きくてきれいに掲載されているということと、それから、子どもたちの作品がたくさん写真で掲載されているんですけども、それは日本文教出版も同じなんですけれども、作品名のタイトルとサイズまでは同じように載っていて、一体この絵は何を表しているのかということで、解説がしっかりと書いてあるのが開隆堂かなと思いました。日本文教出版のほうはあえて書かずに、想像力を膨らませるという意図もあるのかもしれないですけども、解説があるほうがとても丁寧でイメージが湧きやすいのかなというふうには思いました。そういった理由から開隆堂のほうを推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも開隆堂、5年、6年の下のところで未来へつながる図画工作のページということで、未来にどのように学んだことが活かされていくのかというのは、具体的

なイメージができるように工夫されているので、開隆堂のほうがいいかなというふうには思います。

ほか何かご意見ございませんか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切りましてもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

図画工作について、各委員のご意見を伺うと「開隆堂出版」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「開隆堂出版」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、図画工作につきましては「開隆堂出版」を採択することといたします。

続きまして、家庭科につきましては、選定委員会では「東京書籍」「開隆堂出版」の2者が選定されており、家庭科の発行者は2者だけありますので、2者について合わせて協議をしたいと思います。各委員のご意見をお願いいたします。

堀井委員

2者を比べさせていただきまして、開隆堂さんのほうが写真の大きさが見やすいというのがあって、児童が学ぶイメージを持ちやすいのではないかと思います。対して東京書籍さんのほうは、字が小さくてちょっと見づらいところがあって、詰め込みという感じを言い切れないので、そういった印象から開隆堂のほうを推薦させていただきたいと思います。

岡田教育長

ほかにご意見、どうでしょう。

堀村委員

私のほうは、東京書籍のほうで巻末の基礎技能の実寸大の写真が開隆堂に比べて大変分かりやすいのではないかなと思いました。ただ、開隆堂のほうはアレルギーに関する記載が詳しいんですけども、東京書籍のほうはちょっと少ないかなというところは思いました。

ただそのほか、東京書籍のほうで巻頭の見開きでこれから学ぶ内容の全体像が見やすく、目的とのリンクが分かりやすかったり、成長の記録という項目があるんですけども、そこで子どもの振り返りや目標を立てることにつながって、また家庭科をなぜ学ぶのか、自分の生活をよりよくするために学ぶんだというところのメッセージが伝わりやすいのではないかなと思いましたので、東京書籍のほうを推薦したいと思います。

前川委員

東京書籍、開隆堂とも大変工夫されていると思いましたが、私としては、家庭科については安心安全に学ぶことができるように、巻末の「いつも確かめよう」のところでも分かりやすい写真で実習、実技の確認ができるという点と、あと右利きの児童、左利きの児童への配慮が東京書籍のほうで充実していると考えました。

また、消費者教育のところでもシンプルに分かりやすくまとめられ、SDGsとの関連についても記載があり、より優れていると感じましたので、東京書籍を推薦したいと思います。

水上委員

私も東京書籍を推薦したいと思っています。開隆堂のほうは、本当にちょっとした工夫があつて、裏表紙が物差しになっていて、教科書を使って長さを測れるみたいな。それから、索引が巻末についていて、言葉が分からないときにぱっと引けるというような工夫もされているんですけども、先ほども意見がありましたように、何を学ぶのかというのが見開きで、家庭科って5年生で初めて出会う教科なので、そのときに何するんだろうって思ったときに、教科書をぱっと開いたらイメージが湧くというのはとても大事だと思いますので、この点から言うと東京書籍は優れているかなと

思いました。それから、学習の単元の配列なんですけれども、ミシンの学習の配列が開隆堂のほうはとても早いんですね。東京書籍のほうは5年生の終わりのほうに入ってくるというあたりで、子どもたちが縫い物に慣れてミシンに移行するといったあたりでは、配列も児童の発達の段階に合わせた学習の順序になっているので、東京書籍のほうの方がふさわしいかなというふうに私は判断させていただきました。

岡田教育長

ありがとうございます。

私も東京書籍のほうがいいかなと思うんですけど、前回、開隆堂も含めて、男女の役割の分担などが限定されていた家族像になっていましたけど、今回はそれが改善されて、配慮されているかなというふうには思います。これはどちらも配慮されているかなというふうに。家庭科ですから、それぞれの家庭の像というか、今本当に子どもたちの家庭の状況が様々ですから、一定の像というのではなくて、様々な配慮をするべきかなというふうには思っています。

あと、先ほど前川委員もちょっと言われたんですけど、安全というところで、分かりやすく書かれているというか、大切なところがあるので、東京書籍がいいかなというふうに思います。

ほかに何かご意見ございませんか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、家庭科につきましては、各委員のご意見を伺うと「東京書籍」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「東京書籍」に決めたいと思います。よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、家庭科につきましては「東京書籍」を採択することといたします。

続きまして、保健についてでございます。

保健につきましては、選定委員会では「大修館」「光文書院」「G a k k e n」の3者が選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった「東京書籍」「大日本図書」「文教社」について協議をいたします。

答申の内容ですけれども、選定外の理由として、「東京書籍」につきましては、男子児童の水着の写真など、掲載されている写真における配慮が足りない。「大日本図書」につきましては、インターネットトラブルに関する学習内容が少ない。記入欄に罫線がないなど、記入がちょっとしづらいというところです。「文教社」につきましては、UDフォントが使用されていない、記入欄が少なく、別途ワークシートの準備が必要ということで、そういう報告を受けております。

これらの意見から、選定外の「東京書籍」「大日本図書」「文教社」の3者について採択の対象としないことが適切であると考えますが、ご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定されました「大修館」「光文書院」「G a k k e n」の3者について協議をいたします。3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

前川委員

3者とも大変工夫されていると思いましたが、比較検討する上において、大修館については、単元によっては書き込み欄がないため一部ワークシートを作成する必要があることや、光文書院のほうについても1週間の生活リズムを記載するスペースはあるが、児童の考えなどを記入するスペースが少ないと感じました。G a k k e nについては、児童が書き込めるスペースが多く、自分の考えを深めることができるような工夫をされているというふうに思いました。

あともう一点、安全安心の観点からなんですが、G a k k e nについては、デジタ

ル教材で119番のシミュレーションができるようになっており、これについては工夫されているというふうに感じました。以上の理由により、私としてはG a k k e nを推薦したいと思います。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

水上委員

私は東京書籍が気になって、推薦したいかなというのがあります。タブレットを使うコンテンツはそれぞれ各者あるんですけども、「タブレットを使って楽しく学ぼう」というところ辺で表記があって、QRコードで見られるコンテンツの説明がきちっとあって。

岡田教育長

すみません、東京書籍は選定外になってますので。

水上委員

すみません、大修館です。申し訳ありません。

QRコードのところは、何のコンテンツか分かるということが個々それぞれ説明がありますので、とても分かりやすいのかなというふうに思いました。

それと、各単元の前にアスリート等の写真やインタビューが入ってしまして、児童の興味関心をうまく引き出して、高めることができる単元の始まりになっているところ辺、それから男女の二次性徴については、G a k k e nのほうもとても分かりやすい表記にはなっているんですけども、見開きで2ページで大変見やすい構成となっているところ辺で、私は大修館のほうを推薦したいなと思いました。

岡田教育長

ほかどうでしょうか。

堀村委員

最近は薬物乱用が低年齢化していて、小学生の段階で薬物乱用の危険性についてしっかりと認識して、そこから身を守る、入っていかないようにするというところが大事かなと思って、3者を見比べさせていただきました。

大修館のほうは薬物の写真が実際に載っているんですけども、分かりやすい大麻草の写真があるんですけども、分かりやすい面もあるんですけども、大麻草、その写真以外のものは大丈夫というか、例えばお菓子に入っていたりとか、また麻薬だったら錠剤、普通の薬と間違いやすいような薬だというような、それも危ないんだというところが分かるような記載のほうがいいのではないかなと思いました。

光文書院のほうは、反対に薬、色鮮やかな麻薬の薬などが載っているんですけども、これもよしあしで、それ以外は大丈夫というふうに思わないようにというところの配慮があればなと思いました。

G a k k e nのほうは、逆に写真などが何も載っていないんですけども、どうして薬物乱用のほうに誘われて入っていくかというところの記載が詳しく載っていますので、どちらがいいかというのは分からないんですけども、私としてはG a k k e nのように、こういうふうな誘い方がされて、こうやって入っていくんだというところの危険性を注意喚起しているほうがいいのではないかなと思いました。

そのほかでもG a k k e nのほうが、思春期の悩みの対応について、様々な人のコメントや対処方法、相談窓口が詳しく紹介されていて、吹き出しのコメントが児童に寄り添って、児童が自分のこととして当てはめて考えられるような適切な内容になっているのではないかなと思います。また、いじめにつながる行為とか、いじめの定義について詳しく記載されているところも評価すべき点かなと思いました。

ただ、自転車の乗り方についての欄で、ヘルメットの着用についての記載がないのが少し残念だと思いましたけれども、全体としてG a k k e nのほうを推薦したいと思います。

堀井委員

この3者について、AEDの使用方法について比較検討させていただきました。大修館さんのほうに関しては、AEDの使用方法について「音声ガイドに従って操作する、電気ショックの後はすぐに胸骨圧迫をする」ということだけしか記載がなくて、安全についての記載はありません。

光文書院さんのほうに関しては、AEDの使用方法について、小さく「AEDに従う」としか書いておらず、写真もケースに入ったものしかなくイメージは湧きにくいです。

対してG a k k e nさんのほうなんですけども、AEDの使用についてどのようなものか、電気ショックのときに注意点について、漫画を交えて必要なときに実際どういうふうに対応するのかが記載されています。

一番大切なのは、漫画のコマに「みんな離れて」という、この一言が入っていることです。AEDをかけるときに患者さんの体に介助者の人が触れると、電気ショックの巻き添えを食って事故が起こります。子どもの頃から救命救急というのを教えることは非常に大切なことだと思いますので、安全の面から考えましても僕はG a k k e nさんの教科書を推薦したいと思います。

岡田教育長

私のほうも今堀井委員から言われたように、AEDで過去に事故が起こって、介助するほうが事故になったと。水にぬれていて、結局やって自分に返ってきたというのがあるので、それが割ときちっと書かれているのがG a k k e nかなというふうに思います。G a k k e nがいいかなというふうに思ってます。

ほか何かご意見ございませんか。よろしいですか。

各委員の意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切りますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、保健につきましては、各委員のご意見を伺うと「G a k k e n」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「G a k k e n」に決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、保健につきましては「G a k k e n」を採択することといたします。

続きまして、英語につきましてです。

英語は、選定委員会で「教育出版」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」の3者が選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」の3者について協議をいたします。

まず、選定委員会から意見が出ております選定外の理由として、「東京書籍」につきましては、書くことが多く、児童にとってハードルが高いのではないかと。苦手意識を持つ可能性がある。「開隆堂」につきましては、毎回同じパターンのため単調に感じる。「三省堂」につきましては、1つのユニットで学んだ表現を他のユニットで既習事項として活用する機会が少ない。特に英語につきましては、中学校に継続していく部分ですので、導入が一番大切だということのご意見もいただいております。

これらの意見から、選定外の「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」の3者については、採択の対象としないことが適切であると考えますがご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めます。

それでは、選定された「教育出版」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」の3者について協議をいたします。3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

前川委員

先ほど教育長のほうからありましたが、小学校では英語に慣れ親しんで、英語が好きだという子どもを育て、中学校の英語学習にスムーズに移行できるということが大事だというふうに思います。

そういう意味で3者を比較したんですが、私としては、教育出版が紙面が写真やイラストも多用されており見やすく、また伝わりやすく、また難易度も適当と思われま

すので、私としては教育出版を推薦したいと思います。

岡田教育長

ほかはどうでしょうか。

堀村委員

私も同じように、英語を楽しみながら学んで、英語が好きになるということが大事かなと思いましたので、その観点から見やすくて分かりやすい教科書というのを見させていただきました。

啓林館のほうは、教科書のサイズが大きいんですけれども、文字が小さくて少し見にくく感じました。

光村図書と教育出版を比べまして、教育出版のほうは、「お手紙」という国語で学んだ教材がまた英語でそれを学べるということで、楽しく学び英語嫌いをなくすという意味では優れているのではないかなと思いました。また、巻末にワークシートがたくさん入ってまして、茨木が行っているキャリアパスポートの英語版になるようなもので、これは有意義に活用できるのではないかなと思いましたので、教育出版のほうを推薦させていただきたいと思います。

岡田教育長

ほかにどうでしょうか。

堀井委員

小学校の英語教育って始まったばかりで、いろいろと試行錯誤があると思います。3者を見比べさせていただいて、ちょっと先走り過ぎかなというのがあって、とにかく子どもに文法を自然に身につけさせようみたいな感じの配慮がなされているんですけど、それが逆に子どもにとってはしんどいなと。ちょっと変わった例えですけども、昔日本人の漂流民が外界に流されて、異国に流れ着いて全く言葉が分からない、教科書なしでどういうふうに言葉を覚えていったのかって、これは何だと言って、どんどん名詞から覚えていくんですね。それと同じで、最初は英語でこれは何だという名詞からどんどん覚えていくのが一番覚えやすいのかなとは思いますが、残念ながら

ら3者とも名詞に関してはさらっとで、動詞、形容詞、それから語順などを重視しているということで、なかなか英語教育って難しいと思います。

この中でどれを選ぶかってかなり難しいんですけども、光村図書さんと啓林館さんのほうは、日本語との違いで英語のほかに中国語と韓国、朝鮮語を語順として取り入れているわけなんですけども、これはよかれと思って多分やったと思うんですけども、逆に混乱を招きやすいなというのがあって、教育出版さんのほうは英語に特化しているということがあるので、この点で僕は教育出版さんを推薦したいなと思います。

水上委員

QRコードのところがちよっと気になって見たんですが、光村図書はイラストがあるんですけども、そのイラストどおりにQRコードを読み取るとアニメのように会話が始まるんですね。出てきているイラストの男の子や先生が出てきて、そのまま英語をしゃべっている。

教育出版のほうは見ると、イラストはアニメなんですけれども、登場人物は全くの普通の男の子と先生が出てくるということで、教科書のイメージと、それからQRコードに出てくる動画のイメージと一致しないというところ辺で、子どもにとってどうなのかなというのはちよっと気にはなりました。それともう一つは、CAN-DOリストなんですけれども、啓林館のほうは端末なのでちよっと使いにくいな、光村のほうは見開きで大変見やすくて使いやすい、教育出版のほうはCAN-DOリストがないというのが、ちよっと見当たらなかったかなというのはありました。ただ教育出版のほうは、レッスンごとに何をするのか分かるようにイラスト入りできちっと入っていたので、子どもたちが見たときに理解しやすい、それからレッツシング、チャンツということで同じ位置にあるので、実際に英語で歌ったり、それからチャンツを練習したりということができるというところ辺と、それから、これまで教育出版を使われていたということをお聞きしているので、やっとな先生方が教育出版の教科書で慣れて指導されてきて、その積み上げがあるというのもちよっと利点になるのかな。3者で比べると光村と教育出版でそんなに差はないかなと私は思ったんですけども、これまでの先生たちの積み上げを考えると、教育出版、光村とそんなに齟齬はないですし、使いやすいというところ辺も考えると教育出版がいいのかなというふうに、私は推薦したいなというふうに思わせていただきました。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも、教育出版はCAN-DOリストがないというのは本当に残念なんですけど、次回から入れてもらったかなと思いますけど、導入の工夫というか、本当に子どもたちが英語に慣れ親しむという、そういう工夫もされているので、教育出版がいかなというふうには思います。

ほかにご意見ございませんか。よろしいですか。

それでは、各委員の意見が出尽くしたようですので、協議を打ち切ります。

英語につきましては、各委員のご意見を伺うと「教育出版」を評価する意見が多かったように思いますので、採択する発行者を「教育出版」に決めたいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、英語につきましては「教育出版」を採択することといたします。

それでは最後に、道徳についてです。

道徳については、選定委員会では「東京書籍」「光村図書出版」「光文書院」の3者を選定されております。

教育委員会として、まず選定外となった「教育出版」「日本文教出版」「G a k k e n」の3者について協議をいたします。

選定委員会からの答申としては、この3者につきましては、まず「教育出版」につきましては、男女の違いを感じさせる表示がある。それから「日本文教出版」につきましては、別冊の道徳ノートが使いづらい。「G a k k e n」につきましては、マークが多く、その都度確認が必要というふうな報告を受けております。

これらのご意見から、選定外の「教育出版」「日本文教出版」「G a k k e n」の3者については、採択の対象としないことが適切であると考えますが、ご異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、選定されました「東京書籍」「光村図書出版」「光文書院」の3者について協議をいたします。3者の中から採択する発行者を決めてまいります。各委員のご意見をお願いいたします。

堀井委員

昨今、前からの話ですけど、いじめってすごく社会問題にもなっているわけで、道徳で教えないといじめ根絶ってなかなか難しいと思うんです。今新たにネットリテラシーというのが出てきまして、特にSNSですよ、隠れて悪口を言うとか、隠れて仲間外れするとか、そういった事例というのは結構散見することです。

この3者を見比べてみますと、いじめってというネットリテラシーの観点から光文書院さんですよ。どういう内容かという、5人ぐらいのグループで女の子がチャットをしていたと。何か1人がこいつ気に入らないから仲間外れにしちゃえって言って、新たにグループをつくって、あえてその女の子を誘わなかったと。こういうところからいじめが始まるんだよって、そういうことを正面切って教えているわけなんです。

対して東京書籍さん、光村図書さんのほうは、ネットリテラシー、こういうのはいけない、こういうのはいいよって書いているんですけども、ちょっと踏み込みが甘いなどというのがあるんですね。やっぱりこういうことは小学校の幼い頃から教えておかなきゃいけないことだと思いますので、僕は光文書院さんのこういった踏み込んだ教材というのを評価するので、光文書院さんを推薦したいと思います。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

堀村委員

私は光村図書がいいのかなと思いました。6年間、タイトルが「君が一番光るとき」というタイトルで貫かれていて、みんな生きてる、みんなで生きているというメッセージがすごく響くものとなっているかと思います。また、各学年の巻頭の見開き

1 ページのメッセージもいいかと思えます。

あと、東京書籍のほうで4つの視点で分類されているのに対して、光村図書は道德の視点というのが年齢に応じてたくさん出てくるんですけども、それも年齢に応じて出てくるということですので、道德の大切な視点を学ぶ上ではいいのかなと思えました。

また、子どもたちが実施に遭遇しそうな場面設定の教材がたくさん入っていて、自分のこととして考えやすいというところもいいかと思えます。あと、ヨシタケシンスケさんのページが各学年入っているんですけども、これも物事を多面的、多角的に考えることについて工夫されているかなと感じました。ですので、私は光村図書がいいかと思えます。

岡田教育長

ありがとうございます。ほかにどうでしょうか。

水上委員

私も光村図書を推薦したいと思います。教材を学習した後の記録、子どもたちが自分たち自身で振り返るといったところの視点で見させていただいたんですが、どの教科書会社もきちっと、言葉は違いますけれども、学習の記録、学びの記録、学びの足跡ということで、それぞれ各学年に応じて学びの振り返りができるようになっているんですけども、東京書籍のほうは記述式になっているんですね、1年生のときから。ちょっと書きにくいかなというのを思いました。

それから光村は、4年までは学びの木ということでシールが巻末についているので、よく考えたなと思ったら自分でシールをぺたっと貼れると。木のシールの数を見て、自分でいろいろ考えたんだなというのが、足跡が分かるっていう。5、6年生は一言感想で記述式になっている、これは発達段階に合っていて、いいかなと思えます。

それから光文のほうは、これもちょっとおもしろいんですけども、顔マークで自分でチェックを入れていくというので、それぞれ各教科書会社、学びの足跡が見れるというのは、きちっと取り組んでおられるなということで、一番取り組みやすいのは光村図書かなというふうに。シールの貼るのは低学年好きですので、これおもしろいな、いいなというふうに思わせていただきました。

それから、教材の配置なんですけれども、どの会社もきちっと学期ごとに適切に教材は配置されているんですけれども、特に光村は分かりやすく、目次のところ辺で見て、この学期はこの視点で道德の時間考えるんだなみたいなのも、これも子どもたちには分かりやすいし、教員にも分かりやすい記述になっているのかなというふうには思いました。

それと、光村のほうは道德の道案内ということで、道德の考え方であるとか、考える準備体操みたいなので分かりやすく表記がありますし、それから学びの道具箱で、自分の考えをどんなふうにして整理したらいいのかなということでフィッシュボーンという。ほかの教科書会社にもそういう記述はあったんですけれども、どんなふうにして自分の考え方を整理したらいいのか、こんな方法があるよみたいなのを記してあるので、光村は丁寧かなというふうには感じさせていただきました。

前川委員

私のほうは、分かりやすさに着目して3者を比較しましたが、選定委員会の答申にもあるんですが、光村図書については「発達段階を考慮して、一つひとつの読み物が一読して要点が分かりやすい分量となるよう配慮されている」とされているんですが、確かに読み比べてみますと、光村については文の長さが適当であり、内容的にも説明の仕方も分かりやすいので、私としては光村図書を推薦したいと思います。

また1点、光文書院では1年生においてスマートフォンの取扱いについて学ぶところがあるんですが、スマートフォンをどの段階で子どもに持たせるのかというのは、それぞれの家庭の状況や考え方によって違いがあると思います。ただ、教科書でそれを扱うことによって、1年生の段階でスマートフォンを持っていることが前提というか、推奨しているように誤解されてしまう可能性があるんじゃないかなというふうに、ここは感じました。

以上です。

岡田教育長

ありがとうございます。

私のほうも光村と光文書院のどちらかかなと思って見てみたけど、1つが光文書院のところの4年生のところで、網掛けの、女性の方がバス、ホワイトという席に座

っていて無理やり降ろされた、そこから奴隷解放というか、そういうところの話につながっていく、アメリカの1つの運動のきっかけになったものがあるんですけど、ボイコット運動と言うんですけど。ただね、これ4年生なんで、歴史的なことが全然入ってないので、なぜアメリカにアフリカ系の人がこんなにたくさんいて差別されているのかというのが初めから分からないんですね。全体の物語としては分かるんですけど、なぜ連れてこられたかとか、そういうのが歴史の中でしていかないといけないので、これを道徳の中で扱うのは難しいのかなと。表面的には分かるんですよ。でも、本当のところを知るためにはその歴史も必要ではないかなというふうに思っています。

それから、光村図書のほうはいつもそうなんですけど、6年間を通して1つのフレーズがあって、みんな生きてると、みんなで生きると、こういうふうなところがあるので、命ということを中心につくり上げていっているんで、いいかなと思うんです。

ただ、小学校1年生の「みんなみんなありがとう」という家族のお話のところがあるんですけど、家族のところの絵とか写真がお父さん、お母さんがおって自分がおるとい、そこで自分は1人で生きているのではないよというニュアンスなんですけど、先ほども言いましたようにいろいろな形の家族の構成があるので、なかなか伝え方は難しいですけども、そのあたりのところは配慮してもらえたらなというふうに思っています。

それでは、各委員の意見が出尽くしたようですので、質疑を打ち切ってもよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

各委員のご意見を伺うと「光村図書出版」に集約されたように思いますので、採択する発行者を「光村図書出版」に決めたいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、道徳につきましては「光村図書出版」を採択することといたします。

次に、小学校における学校教育法附則第9条関係図書についてであります。提案者の提案のとおり、「必要に応じて採択する」ことよろしいでしょうか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

それでは、小学校における学校教育法附則第9条関係図書につきましては、「必要に応じて採択する」ことといたします。

ほかに何かご質問等はございませんか。

それでは、お諮りいたします。質疑を打ち切りましても異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって、議案第34号は以上のとおり可決いたします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしました。

令和5年第10回茨木市教育委員会臨時会を閉会いたします。どうもご苦労さまでした。

(15時58分 閉会)

以上会議の顛末を記載し、茨木市教育委員会会議規則第17条によりここに署名する。

令和5年8月7日

茨 木 市 教 育 委 員 会

教 育 長 _____

署 名 委 員 _____